

学長定例記者会見要項

日 時： 令和元年10月17日（木） 11：00～11：45
場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

発表事項

1. 山形大学は創立70周年を迎えました
2. 中国に同窓会を設立 ～ 留学生獲得に向け、ネットワークを強化 ～
3. 佐藤慎也教授らが第13回キッズデザイン賞で経済産業大臣賞
～ 東日本大震災後の子どもと築く復興まちづくりプロジェクト ～
4. JIA(日本建築家協会)東北建築学生賞で本学学生が特別賞
5. 附属博物館にて「国際周期表年2019特別展」開催

お知らせ

1. 第3回 公開 英語教員研修（公開講座）を実施します
2. 「人文学部ホームカミングデー2019」を開催します
3. 理学部ホームカミングデーについて

（参 考）

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時： 令和元年11月6日（水） 11：00～11：45
場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

学長定例記者会見（10月17日）発表者

1. 山形大学は創立70周年を迎えました

学 長

こやま きよひと
小山 清人

2. 中国に同窓会を設立 ～ 留学生獲得に向け、ネットワークを強化 ～

理事・副学長

やすだ ひろのり
安田 弘法

3. 佐藤慎也教授らが第13回キッズデザイン賞で経済産業大臣賞

～ 東日本大震災後の子どもと築く復興まちづくりプロジェクト ～

学術研究院 教授（子ども環境・都市計画）

さとう しんや
佐藤 慎也

4. JIA(日本建築家協会)東北建築学生賞で本学学生が特別賞

地域教育文化学部 4年

ながい さおり
永井 幸織

5. 附属博物館にて「国際周期表年2019特別展」開催

学術研究院 教授（化学）

理学部 3年

//

くりやま やすなお
栗山 恭直
いのうえ たくま
井上 拓
きざき みく
木崎 実空

令和元年（2019年）10月17日

山形大学は創立70周年を迎えました

【本件のポイント】

- 昭和24年（1949年）に創設された山形大学は、今年で創立70周年
- 大学の使命である「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」の実現に向け、次の10年でのさらなる飛躍を目指す
- 記念行事は学内向けに実施



【概要】

山形大学は、旧制の山形高等学校、山形師範学校、山形青年師範学校、米沢工業専門学校、山形県立農林専門学校を母体として、昭和24年（1949年）に新制国立大学として創設され、今年、70周年を迎えました。

この70年の間には、医学部の開設(1973年)や大学の法人化(2004年)など、大学にとって様々な出来事がありました。山形大学は、地域との密接な関係を築き、ともに発展してまいりました。日本のみならず、世界で活躍する数多くの卒業生を輩出してきたこと、有機EL、ナスカの地上絵研究、重粒子線がん治療研究など世界をリードする研究成果を生みだしていることなど、大学として大きな成果を上げてこられたのも、日頃から本学の教育研究活動をご支援いただいている、地域の皆様方のご支援の賜物と深くお礼申し上げます。

18歳人口の減少など、大学にとっては、これから非常に厳しい時代を迎えることが予想されています。そのような厳しい社会の中でも、山形大学が力強く前進していくために、私たちは、70周年の節目を「山形大学をひとつにするきっかけとする」機会ととらえました。次の10年も、学生と地域の皆様がともに学びあい、そして山形大学が社会の変革の原動力となるよう——「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」の3つの使命を実現する大学づくりを推進してまいります。

【大学の概要】

明治11年（1878年）に前身である山形県師範学校が開校して以来140年を超える歴史を持つ。昭和24年（1949年）5月の国立学校設置法により、山形高等学校など5つの教育機関を母体として設置された。現在は、6学部7研究科、医学部附属病院、附属学校園等を有し、山形市、米沢市、鶴岡市の県内3市に4つのキャンパスを持つ。学生数約9,000名、教職員数約3,000名を擁する総合大学。「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を使命として掲げ、イノベーションを牽引する人材育成拠点として、教育、研究、地域貢献に取り組んでいる。

【創立70周年記念事業】 ※当日の取材をご希望の場合は、事前に下記担当までお問い合わせください。

事業内容 山形大学構成員とそこご家族を対象とした、山形交響楽団による演奏会
事業概要 山形大学構成員への感謝と、山形大学が厳しい社会の中でも力強く前進していくため、「山形大学をひとつにするきっかけとする」をメインコンセプトに本事業を実施する。
日時 令和元年12月7日（土）14:00～16:00
場所 山形テルサホール
出演者 指揮／藤岡幸夫 ピアノ／三輪 郁（山形大学学術研究院教授）
管弦楽／山形交響楽団 共演／山形大学地域文化学部学生有志

お問い合わせ

総務部総務課 総務担当

TEL 023-628-4006 メール somsomu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

令和元年（2019年）10月17日

中国に同窓会を設立 ～留学生獲得に向け、ネットワークを強化～

【本件のポイント】

- 海外における元留学生同士並びに本学とのネットワーク強化のため、中国に「山形大学中国同窓会」を設立
- 本学において、海外での同窓会設立はマレーシア、インドネシア、ベトナムに続き4例目
- 母国へ帰国した留学生同士の交流や、本学とのネットワーク強化によって、優秀な留学生の受入れ増大などの効果が期待される



【概要】

2019年10月13日、中国の延吉市において、「山形大学中国同窓会」を設立しました。設立総会には、安田弘法理事をはじめ本学教職員、来賓、山形大学元留学生など25名が出席。海外での同窓会の立ち上げは本学ではマレーシア、インドネシア、ベトナムに続き4例目のものですが、延辺大学で日本語を学ぶ学生のうち、山形大学への留学希望者も準会員という形で本同窓会に入会していただき、総会員数34名で立ち上げることができました。山形大学は、「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」という3つの使命と5つの基本理念に基づき、学生・教職員・地域の国際化の推進をビジョンの1つとしています。その取り組みの一つとして、平成28年(2016年)度から、元留学生とのネットワークづくりの強化に努めてきました。実際に、短期留学生として受け入れた学生が、後に本学の大学院に進学している例もあり、この度の海外同窓会設立により、本学と元留学生のネットワーク強化による、優秀な留学生の受入が期待されます。

【背景】

山形大学は、「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を使命とし、5つの基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に取り組み、地域変革のエンジンとして存在感のある大学を目指しています。第三期中期目標のビジョンの一つには、「学生・教職員・地域の国際化の推進」を掲げて、先に発表したダブル・ディグリー制度の導入など、多面的な国際化を図るための施策を推進しています。

【海外留学生同窓会の設立状況】

| | |
|-------------|-----------------|
| 2017年4月22日 | 山形大学マレーシア同窓会設立 |
| 2018年10月7日 | 山形大学インドネシア同窓会設立 |
| 2019年6月30日 | 山形大学ベトナム同窓会設立 |
| 2019年10月13日 | 山形大学中国同窓会設立 |

【今後の展望】

本学で学んだ元留学生との継続的な交流を維持し、今後の更なる連携を強化していくことで、優秀な留学生の受入れ増大につなげたいと考えています。また、留学生ネットワークを活かして、海外インターンシップ受け入れ企業の開拓、さらには、元留学生による本県へのインバウンド観光や情報発信など、地域創生につながることも期待されます。本学としては、令和2年度までにさらに1か国程度を対象に海外留学生同窓会の設置に取り組みます。

<参考> 中国からの留学生数推移

| | |
|-------|----------------------|
| 2019年 | 121名（学部生65人、大学院生56人） |
| 2018年 | 101名（学部生53人、大学院生48人） |
| 2017年 | 88名（学部生47人、大学院生41人） |
| 2016年 | 86名（学部生49人、大学院生37人） |

お問い合わせ

山形大学教育・学生支援部国際交流課 今野、須藤
TEL 023-628-4118 / FAX 023-628-4491

令和元年（2019年）10月17日

佐藤慎也教授らが第13回キッズデザイン賞で経済産業大臣賞 ～東日本大震災後の子どもと築く復興まちづくりプロジェクト～

【本件のポイント】

- 本学の佐藤慎也教授が日本ユニセフ協会、竹中工務店等と実施した「子どもたちが描く みんなの公園 ワークショップ」のプロジェクト
- 子どもの安全・安心と健やかな発達成長に役立つ優れた製品・空間・サービス・活動・研究などを顕彰する第13回キッズデザイン賞受賞作品263点の中から、最終審査で最優秀賞など33点が選定（9月25日発表）
- 子どもの様々な知識の習得や学びを支援する作品の中から最も優れたものとして、経済産業大臣賞（子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン リテラシー部門）を受賞



【概要】

本学の佐藤慎也教授（子ども環境・都市計画）が、日本ユニセフ協会、竹中工務店などと実施したプロジェクト「子どもたちが描く みんなの公園 ワークショップ」が、第13回キッズデザイン賞を受賞し、受賞作品の中から特に優れた作品として、優秀賞（経済産業大臣賞：子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン リテラシー部門）に選ばれました。同賞は、子どもの様々な知識の習得や学びを支援する作品の中から最も優れたものに贈られるものです。一連の取り組みでは、UNICEF が掲げる「Build Back Better」の理念の基、東日本大震災で被災した石巻市門脇地区において3つの街区公園を対象に、石巻市立門脇中学校の生徒たちが主体となって模型によるデザイン、思い出の絵日記、花壇づくりワークショップなど多様な表現を通して3年間に渡り、公園づくりを行いました。審査員からは生徒たちの具体的なデザインを咀嚼しながら、重要と考える要素を整理し、生徒たちにフィードバックしていった点、将来の維持管理を踏まえた地域の人たちと生徒たちとの交流型花壇づくりワークショップを実施した点などが高く評価されました。

【第13回キッズデザイン賞 受賞概要】 <https://kidsdesignaward.jp/>

応募企業・団体名：公益財団法人日本ユニセフ協会／国立大学法人山形大学／株式会社竹中工務店
受賞作品名：子どもたちが描く みんなの公園 ワークショップ
受賞部門：子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン リテラシー部門
受賞タイトル：優秀賞「経済産業大臣賞」

【背景】

建築・都市計画分野、福祉や教育分野を融合する形で研究を進めている佐藤慎也教授（子ども環境・都市計画）は、主に①冒険遊び場における子ども環境のネットワーク化に関する研究、②建築・まちづくり等教育手法をベースにした総合的な学習に関する研究③少子高齢化社会における住環境形成に関する研究を行ってきました。

東日本大震災を契機として、2011年冬から「子どもと築く復興まちづくり」プロジェクトを日本ユニセフ協会、竹中工務店と協働で実施しています。その取り組みのひとつが今回の受賞プロジェクトです。

【受賞プロジェクト『子どもたちが描く みんなの公園ワークショップ』について】

2015年から石巻市立門脇中学校1年生を対象に「未来の公園」を模型で表現する授業を総合的な学習の時間として実施しました。生徒たちのアイデアは竹中工務店設計担当者の手で具体的な図面として表現した後、具体的な3つの公園像を作成し、基本設計に採り入れました。子どもたちが描いた「かどのわき西公園」は、2017年8月に、「かどのわき中央公園」と「まねき公園」は、2018年2月に開園しています。

お問い合わせ

学術研究院 教授 佐藤慎也（子ども環境・都市計画/工学部担当）
TEL 023-628-4377 メール ssato@e.yamagata-u.ac.jp

令和元年（2019年）10月17日

JIA(日本建築家協会) 東北建築学生賞で本学学生が特別賞

【本件のポイント】

- 永井幸織(地域教育文化学部4年)さんが第23回JIA東北建築学生賞で特別賞を受賞
- 応募作品41作品の中から、最優秀賞など10作品が公開審査で選考
- 本学学生の受賞は初めて。



【概要】

第23回JIA東北建築学生賞公開審査会が9月27日、仙台市で行われ、地域教育文化学部4年の永井幸織(ながいさおり)さんが特別賞を受賞しました。本学学生の受賞は初めてです。

永井さんの作品は「禅」。建築設計製図の授業で作成したものをベースにして作成したものです。暗渠化されている七日町の御殿堰を石積み水路に復元し、重厚感のある反り屋根と山形の山並みを表現した屋根で、新旧2つの建物をつなぎ、静寂な雰囲気を感じることにきる商業施設を提案しました。

公開審査会では公開ヒアリングと審査員投票を経て、応募作品41作品のなかから、特別賞に選ばれました。

【受賞作品について】

今回の課題で設定された、山形市七日町にある老舗菓子店・十一屋の敷地には、400年の歴史を持つ山形五堰のひとつである御殿堰が流れています。現在、暗渠化されている御殿堰を石積み水路に復元し、市民の憩いの場とするため、七日町の隣にある旧寺町に着目し、静寂な雰囲気を感じることにできる商業施設を提案し、親水空間としました。

建物については、寺の重厚感のある反り屋根と山形の山並みをイメージした屋根で、新旧2つの建物を覆うことによって時代の流れ、繋がりを表現しました。

十一屋をメインに山形の食を味わい、堰に面したテラスで静かに座禅を組み、古い建物の中で茶を飲み、禅とは何かを自然と感じられるような要素を取り入れています。また、山形の伝統工芸品や伝統野菜を利用、販売し、施設全体で山形の文化や歴史に触れるきっかけとなる場を提供します。

【第23回JIA東北建築学生賞について】

1. 応募資格 東北地方の大学、高専、専門学校の建築学科、及びこれに類する学科に在籍する学生で、学年を問わず応募できます。
2. 提出作品 各教育機関の設計課題で制作した未発表の建築設計作品で、各校推薦3点以内。（1課題1作品）
3. 応募期間等 （1）登録期間 2019年8月1日（木）～8月30日（金）
（2）作品提出締切 2019年9月13日（金）17:00 必着
4. 公開審査 2019年9月27日（金）
5. 主催 公益社団法人日本建築家協会（JIA）東北支部

お問い合わせ

学術研究院 助教 はま さだし
濱 定史 (工学部担当)

TEL 023-628-4367 メール hamasada@yz.yamagata-u.ac.jp

令和元年（2019年）10月17日

附属博物館にて「国際周期表年2019特別展」開催

【本件のポイント】

- メンデレーエフの周期律発見150年を記念し、公益社団法人日本化学会国際周期表年実行委員会が企画した、全国12会場をまわる巡回展です。東北地方で開催されるのは山形大学附属博物館のみです。
- 豊富な周期表資料および日本人周期表作家たちの最新でユニークな周期表を展示します。周期表と元素の科学が楽しくなる体験装置もたくさんあります。
- オープニングイベントとして外部講師による講演会と、理学部サイエンスコミュニケータープログラム履修学生による実験教室と展示解説を行います。



札幌市青少年科学館（8/21～9/1）

【概要】

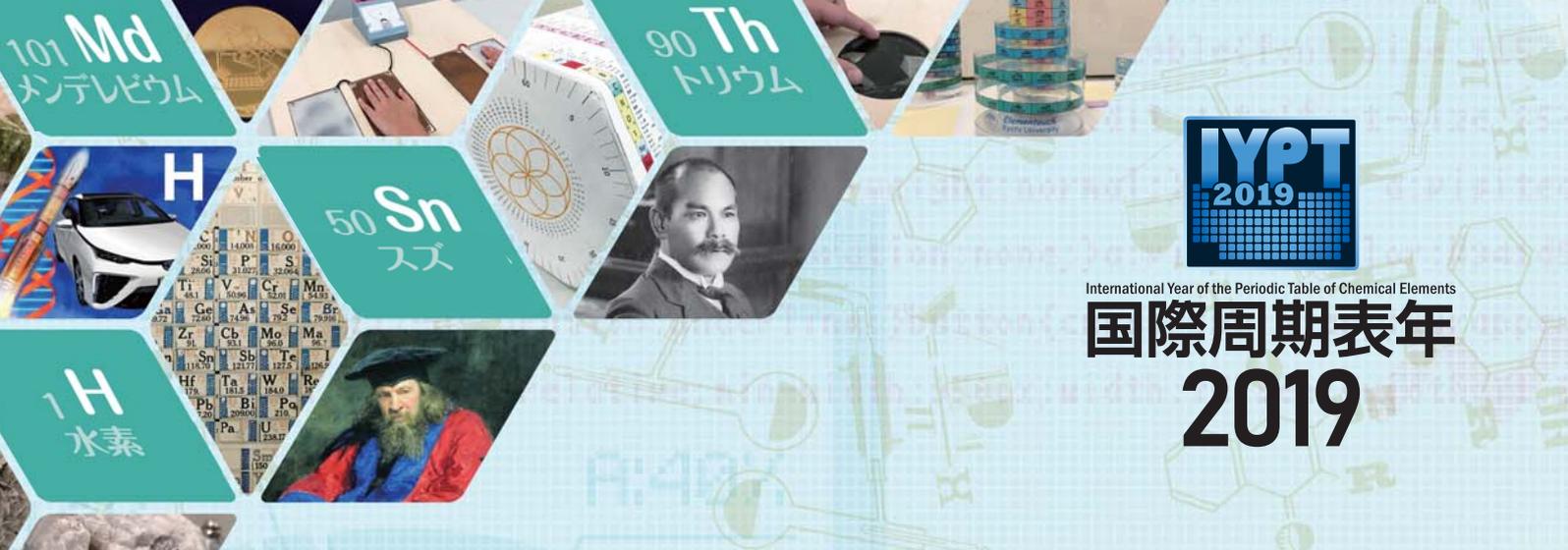
2019年はメンデレーエフの周期律発見から150年目にあたります。また、2016年には、113番目の元素ニホニウムを含む118番までの4元素名が確定し、周期表の第7周期までが完成しました。これらを記念して、ユネスコと国連が「国際周期表年2019(IYPT2019)」を制定し、現在世界中でさまざまな取り組みが繰り広げられています。その活動の一環として「国際周期表年2019特別展」は日本化学会 国際周期表年2019実行委員会によって企画されました。

- 会 期 2019年11月3日(日)～11月28日(木)
- 休 館 日 4日(祝・月)、9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日)、20日(水)
21日(木)、23日(土)、24日(日)
- 開館時間 9時30分～17時(11月3日(日)のみ11時～17時)
- 入 館 料 無料
- 会 場 山形大学附属博物館
- みどころ ①豊富な周期表資料を迫力あるA0フレームパネルでご紹介
②日本人研究者の発見、日本の科学技術がわかる！
③元素発見鉱物で先人の叡智を学ぶ！
④日本人周期表作家たちの最新でユニークな周期表を味わい尽くす！
⑤周期表と元素の科学が楽しくなる体験装置がいっぱい！

【11月3日(日) オープニングイベント】

- 10:30～11:30 学生による実験教室(会場：SCITAセンター 定員：30名・先着順)
- 13:30～15:00 外部講師による講演会(共催：山形県 会場：基盤教育1館 112番教室)
「一家に1枚周期表に込めた思い」玉尾皓平(豊田理化学研究所長)
「113番ニホニウムの発見」羽場宏光(理化学研究所)
- 15:30～16:30 学生による展示解説(会場：山形大学附属博物館)
※事前申し込み不要、すべて無料

お問い合わせ
学術研究院 教授 栗山恭直(化学)
TEL 023-628-4586 メール kuriyama@sci.kj.yamagata-u.ac.jp
学術研究院准教授 佐藤 琴(博物館学・附属博物館学芸研究員)
TEL 023-628-4930 メール hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



International Year of the Periodic Table of Chemical Elements

国際周期表年 2019

国際周期表年 2019特別展

The International Year of the Periodic Table 2019: Special Exhibition

会期 2019年11月3日(日) ▶ 2019年1月28日(木)

会場 山形大学附属博物館 〒990-8560山形県山形市小白川町1丁目4-12
TEL: 023-628-4930 FAX: 023-628-4668

観覧料 無料

開館時間 9:30~17:00

休館日: 2019年11月4日、9日、10日、16日、17日、20日、21日、23日、24日

企画・制作  公益社団法人日本化学会
国際周期表年実行委員会

後援 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会
山形県商工労働部

主催 山形大学SCITAセンター・山形大学附属博物館



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

In support of



International Year
of the Periodic Table
of Chemical Elements

| | | | | |
|--------------------------|---------------------------|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------|
| I 53 Iodine | Y 39 Yttrium | Pt 78 Platinum | Ca 20 Calcium | K 19 Potassium |
|--------------------------|---------------------------|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------|

画像提供:
東北大学史料館
理化学研究所仁科加速器科学研究センター



国際周期表年 2019特別展

The International Year of the Periodic Table 2019: Special Exhibition

オープニングイベント

11月3日 日

事前申し込み不要 すべて無料

10:30 ▶ 11:30 学生による実験教室

会場：SCITA センター 定員：30名（先着順）

13:30 ▶ 15:00 講演会 共催：山形県

玉尾皓平（豊田理化学研究所長）

「一家に1枚周期表に込めた思い」

羽場宏光（理化学研究所）

「113番ニホニウムの発見」

会場：基盤教育1号館112教室

15:30 ▶ 16:30 学生による展示解説

会場：山形大学附属博物館

お問い合わせ

山形大学附属博物館

電話 023-628-4930

メール hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

駐車場に限りがありますので、
公共交通機関をご利用ください

令和元年(2019年)10月17日
山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 第3回 公開 英語教員研修（公開講座）を実施します

地域教育文化学部が申請した「山形県教員指標に対応した英語教員研修eポートフォリオの構築」が文部科学省の委託事業に採択されました。その一環として、英語教員、英語教員を目指す学生を対象とした公開講座を実施します

日 時：10月27日（日）13:00～17:00

会 場：山形大学小白川キャンパスC1（人文社会科学部1号館 301教室）

2. 「人文学部ホームカミングデー2019」を開催します

平成29年の改組により「人文社会科学部」に改称された本学部は、来年3月に人文学部として最後の卒業生を送り出すこととなります。これを機会に、昭和42年（1967年）に設置されて以来50年以上に渡る人文学部の歩みを振り返りながら、今後の人文系学部のあり方についても考えるような場として、「人文学部50年—学部のこれまでとこれから」と題して、卒業生や在学生在が参加したフリートークセッションを開催します。

日 時：10月26日（土）10:00～16:00

会 場：山形大学小白川キャンパスC1（人文社会科学部1号館）

3. 理学部ホームカミングデーについて

ティーデマン・ふすま賞講演会のほか、研究室公開、スタンプラリーも開催します。

日 時：10月26日（土）10:00～16:00

令和元年（2019年）10月17日

第3回 公開 英語教員研修（公開講座）を実施します

【本件のポイント】

- 山形大学地域教育文化学部が、文部科学省「令和元年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」に採択されました。
- 本事業の一部として、県内の小学校、中学校・高等学校教員（英語）および小学校、中学校・高等学校教員免許状（英語）取得を目指す学生を対象に、英語の授業力を向上させるための教育研修（講座）を実施することとしました。
- 第3回目の英語教育研修（公開講座）を令和元年10月27日（日）に山形大学で開催します。

【概要】

文部科学省委託事業「令和元年度 教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」に山形大学地域教育文化学部が申請した「山形県教員指標に対応した英語教員研修eポートフォリオの構築」が採択されました。

本事業の一部として、県内の小学校、中学校・高等学校（英語）教員および小学校教員免許状、中学校・高等学校教員免許状（英語）取得を目指す学生を対象に、英語授業力を向上させるための英語教員研修（公開講座）を実施することとしました。

第3回の英語教育研修（公開講座）を下記のとおり開催します。講師に長崎大学から中村典生教授、ペンシルヴァニア大学からバトラー後藤裕子教授をお招きし、学校英語、中学校・高等学校の英語の授業力向上に関する講演会を開催します。

研修（公開講座）を通して、参加者の小学校・中学校・高等学校の英語授業を改善するために必要な資質・能力を身に付けることを目指します。

【講座内容】

実施日時：令和元年10月27日（日）13時～17時

実施場所：山形大学小白川キャンパス 人文社会科学部1号館 301教室

講師：長崎大学・中村典生教授、ペンシルヴァニア大学・バトラー後藤裕子教授

講演内容：「英語習得の開始時期と習得について」等、小学校英語、中学校・高等学校の英語の授業力向上に関する内容をお話いただき、eポートフォリオを活用して、研修の学びを深める。

対象：小学校教員、中学校・高等学校（英語）教員
小学校教員・中学校・高等学校（英語）教員を目指す学生
英語教育研究者

【申込方法など】 参加費は無料です。下記アドレス宛にメールでお申し込みください。

※用語解説

eポートフォリオ：児童生徒の学習の成果、そしてそこに至るまでの過程に関する記録を集めた電子ファイルのこと。

お問い合わせ

学術研究院 准教授 金子淳（英語教育学／地域教育文化学部主担当）

TEL 023-628-4400 メール jun_kaneko@e.yamagata-u.ac.jp

令和元年（2019年）10月17日

「人文学部ホームカミングデー2019」を開催します

【本件のポイント】

- 人文学部ホームカミングデーを八峰祭と同日に開催します。
- 平成29年の改組により「人文社会科学部」に改称され、来年3月に人文学部として最後の卒業生を送り出します。50年以上に渡る人文学部の歩みを振り返りながら、今後の人文系学部のあり方についても考える「フリートークセッション」を開催します。
- 現在の人文社会科学部の教育・研究を紹介するコーナーも開催します。



【概要】

山形大学人文学部のホームカミングデーを10月26日（土）に開催します。

平成29年の改組により「人文社会科学部」に改称された本学部は、来年3月に人文学部として最後の卒業生を送り出すこととなります。これを機会に、昭和42年（1967年）に設置されて以来50年以上に渡る人文学部の歩みを振り返りながら、今後の人文系学部のあり方についても考えるような場として、「人文学部50年一学部のこれまでとこれから」と題して、卒業生や在学生が参加したフリートークセッションを開催します。

また、現在の人文社会科学部の教育・研究を紹介するコーナーも開催します。

【開催日時】

令和元年10月26日（土）10：00～16：00

【開催場所】

山形大学人文社会科学部1号館

【対象】

卒業生、学生、一般の方（参加費無料、事前申し込みは不要です。）

【プログラム】

- ティーデマン・ふすま賞講演会 10：00～11：30（人文社会科学部205講義室）
フリートークセッション 13：30～15：00（人文社会科学部 Fusuma Language Lounge）
テーマ「人文学部50年一学部のこれまでとこれから」
前半は、卒業生や在学生が参加したパネルディスカッションを開催します。
後半は、当日ご参加いただいた方を交えてのフリートークを実施します。

研究展示、上映コーナー 10：00～16：00（人文社会科学部101講義室）

現在の人文社会科学部の教育や研究を紹介する展示コーナーを開催します。

お問い合わせ

小白川キャンパス事務部総務課総務担当

TEL 023-628-4126 メール kj-soukatu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

HOME COMING DAY 2019

山形大学人文学部

10.26 SAT.

ティーデマン・ふすま賞 講演会

10:00

人文社会科学部205講義室

ティーデマン・ふすま賞受賞者による
講演会を行います。

フリートークセッション

人文学部50年 一学部のこれまでとこれから

13:30

Fusuma Language Lounge

パネリストを招いて、50年以上に渡る人文学部
の歩みを振り返りながら、今後の人文系学部の
あり方について考えます。

研究展示 | 上映コーナー

10:00 → 16:00

人文社会科学部101講義室

現在の人文社会科学部の教育研究について
紹介します。



ティーデマン・ふすま賞講演会

10/26 SAT 10:00開講

山形大学人文社会科学部1号館2F205教室

同時開催: 山形大学大学祭「^{やつみねさい}八峰祭」

当日は小白川キャンパスへの車両の入構は一切できませんので、公共交通機関をご利用願います。

研究室公開 | スタンプラリー

10/26 SAT 10:00 ▶ 16:00

SCITA (サイタ) は、山形大学理学部が、いつも地域の未来のための科学 (SCience for Tomorrow in our Area) を考え、地域に貢献できる存在になりたいという願いをこめて、作った愛称・ロゴです。